

が ん ば

報 友 会 育 小 三 島
行 部 報 部
発 報 部
廣 報 部

〔第73号〕

うまくいっただかな

「静」と「動」

六年生組体操より



理解と信頼

育友会副会長

芝 田 扶 實 子

実りの秋、スポーツの季節となりました。

歴史と伝統に輝く三小の校門を通りぬけると、北村西望翁の「たゆまざる歩みおそろしかたつむり」と刻まれた石碑が目に入ります。自作の肖像の台石に刻んだ文章の中の一とつだそうで、「人生はまだまだこれからだ、健康と共に油断大敵、自然が一番で無理をしてはいけない」という意味とお聞き致しました。

何年前になりましたが、椋鳩十先生の講演をお聞きした時、人間は十代で芽が出る人また二十代、三十代、四十代、五十代、六十代と、いつ人生の中で芽が出るかわからないと決してひるんではいけないと言われた言葉が今でも耳に残っております。

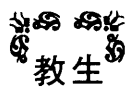
九月十五日、晴天にめぐまれ、体育部主催の相撲大会とフットベースボール大会が同時に開催されました。子供達の快活で、元氣溢れんばかりに一生懸命試合をしている姿に、つい応援に力が入り、歓声を上げてしまいました。特に相撲の場合は礼儀作法があり、五人勝抜き戦の時などはあの小さな身体どこにあれ

だけの根性が潜んでいるのかと驚きました。一人ひとりの子供達を見ていて、将来どのように芽ばえて行くのだろうかと思うと、何だか胸が熱くなる思いでした。そしてこの方屋が出来上がる迄の様子而走馬燈のように臉をかすめて行きます。

熊本の吉田司家を御訪問して二十四世追風様より、いろいろと方屋の作り方をお尋ねした時、相撲用語が出て参ります。土俵のことを方屋というそうでした。又、行司がこうつたのこつたと、いいます。俵から足が出ないよう、廻れ廻れという意味だそうです。とてもおやさしく温厚な方で、三小の方屋開きにもおいで願っているいろいろとご指導して戴きました。今年一月故人となりました。ご冥福をお祈り申し上げます。

昨今、教育問題の事がよくいわれておりますが、それぞれの環境と、人と人とのつながり、そして理解と信頼の連鎖こそ、一番大切なのではないでしようか。可愛い子供達の健全育成の為に、私達育友会員は一生懸命頑張る所存でございます。今後共どうぞ宜しくお願い申し上げます。

常任委員・町内担当の先生を交えて 実りのあった町内訪問



生活部

③ スポーツを
通して、明る
いあいさつが
たい。

その他
① 品物を大切にしない。
② 雨の日自家用車での送り迎
えはどうか。
③ 学校プールの、登校日・日
曜日も使用させて欲しい。
先生方のコメント

例年、夏休み中に実施され
る町内訪問も七月二十二日に
スタートして、八月十日まで
のうち、九日間の日程をもつ
て、有意義に無事終了するこ
とができました。

今回は、常任委員の方と町
内担当の先生を交えての懇
談会ができました。

一晚平均三町内の開催とい
うことでしたので、成瀬会長
さんと江崎校長先生には、時
間的に心せわしい訪問日程を
こなしていただきました。

次に、各町内で話し合わせ
た議題をひろってみますと、

- ① あいさつについて (七)
- ② 非行について (八)
- ③ しつけについて (六)
- ④ 球技の練習 (三)
- ⑤ 他町内の活動状況
- ⑥ 家庭学習について
- ⑦ 金銭教育について
- ⑧ 町内合併について
- ⑨ 子供の性格、反抗期
- ⑩ 父親の存在
- ⑪ 集団登校、生活指導
- ⑫ 休みの中、小学生の関係
- ⑬ フリーテマで討論
- ⑭ 服装を定めるのに目安と
なる規則を決めて欲しい。

⑮ 行事が多すぎるので見直
しを、現状を続行するな
ら充実したものにして欲
しい。

⑯ 育友会は「役員の会」で
も「母の会」でもないの
だが、ともすれば、そう
いう現状だと思うので、
会員や父親達にどんどん
参加してもらうには、ど
うしたらよいか。

⑰ 好ましい親のあり方と子
供にやる気を起こさせる
よい方法はないか。

⑱ 学校内での作業は、子供
達にさせてはどうか。
プール周辺の草取りなど
は、育友会の出すぎでは
ないか。

⑲ プール監視中の事故の場
合の責任の所在は、
次に、町内で話し合われた
ことを、まとめてみますと、

一、球技大会について
① 練習時間(二時間)が守ら
れていない。過熱気味で、一
日の大半がついやされ、つか
れきって何もできない。家族
そろって夕食もとることがで
きない。

② 勝敗にこだわる。
③ 試合に負けると監督からた

たかれる。

④ 親は合併希望、子どもは単
独出場希望で、親は苦勞する。
⑤ すべて子供は、管理されて
いるので、自主性は、育ちに
くいのではないか。

⑥ 一年から六年まで、全員参
加しやすい方法はないか。
⑦ 小規模町内で、一年生から
出場し、町内の和をモットー
に、勝敗にこだわらず、がん
ばった。

⑧ 合併チームであるが、練習
も決められた時間には、行っ
ているので、選手も平等に出
場させて欲しい。

⑨ 毎年合併チームの相手が変
わるのでは、小さい町内は困
る。主催者側で考えてほしい。

⑩ ルールの説明会だけでは、
親も十分理解できない。子ど
も代表にも、説明会を開いて
周知徹底させて欲しい。

二、あいさつについて
① 四月よりあいさつ励行とと
り組んできた結果、定着して
きた。(交通指導の方、お巡
りさんまであいさつ)

② 親から声をかけて習慣化す
ることによって、地区ぐるみ
のあいさつの輪を広げていき

養部

③ スポーツを
通して、明る
いあいさつが
たい。

その他
① 品物を大切にしない。
② 雨の日自家用車での送り迎
えはどうか。
③ 学校プールの、登校日・日
曜日も使用させて欲しい。
先生方のコメント

できるようなった。一人で
は、なかなか元氣よいあいさ
つができない。
④ まず家庭内からのあいさつ
から、それも夫婦からそして
親子のふれあいへ。

⑤ 一声運動の推進、心の交流
三、非行について
① 非行児童を出さぬよう保護
者が連絡し合い、協力して指
導にあたる。

② 非行グループは、服装・言
動についての注意も、素直に
聞こうとしない。

③ こづかいの与え方の工夫、
計画的な使い方、指導が大切。
与えすぎは、非行のもと、

④ ことばづかい(暴力的言葉
づかい)に、もっと注意して
いきたい。

⑤ 約束は、きちんと守らせる。
一度破るとわがままになり、
親の力も及ばない場合すらで
てくるだろう。

四、行事について
① 町内ぐるみで協力的な行事
が、うまくいきそうである。
② 草取り、ごみ集めをしたが、
汗出して働こうとしない。
③ 子ども自ら考えて、主体的
に行動できる場をつくってや

① 品物を大切にしない。
② 雨の日自家用車での送り迎
えはどうか。
③ 学校プールの、登校日・日
曜日も使用させて欲しい。
先生方のコメント
① 小さい町内で出席者が多か
った。(夫婦出席)
大きい町内で出席者が少な
かった。
② 家族的な雰囲気の中で、
なごやかで、内容ある話し合
いができた。
③ 会員の問題意識が薄かった
ので、話し合うことも別にな
かった。形式訪問の感が強か
った。
④ 父親の参加は一名で、母親
の中にも、このような会は、
母親が出席するものとする空
気が強いようだ。
以上、まだ沢山あるが、紙
数の都合で割愛させていただきますが、ちなみに出席者総数
は、男五六、女二五六、計三
一二人でした。
さいごになりましたが、お
世話くださった町内代議員さ
んに厚く御礼申し上げます。
結果は、学校の育友会活動の
程として、大いに活用させて
いただきたいと思います。

「キープ・グリーン」を合言葉にしている両国は、さすがに緑に恵まれ、その色といひ規模といい、日本と比較することはできない。緑が保たれている理由は、国土に比べて人口の少ないことが大きな原因だろうが、人為としての働きも見のせない。

私はこの緑を保ち、自然を大切に守るこ

の国々に住む人びとを見ると、心のおおらかさ、上品さ、もてる国の心の豊かさを感じずにはいられなかつた。

緑の中に白い教室が点在している学校は、どこも私達を暖かく迎えてくれた。同和对策を積極的にすすめているニュージージーランドは必ずマオリ（原住民）の踊りとマオリ語で歓迎し、オーストラリアでは桜の花が生けてあつた。いずれも細やかな心づかいである。

学校教育のシステムは、日本のように整備されていないように思う。施設や設備も整っているとはいえない。もちろん、自然・歴史・民族構成のちがうこれらの国々とのちがいを論ずることは慎まなければならぬ。教科書の採択すら学級担任にまかせているのを見ると、

我が国のような国の基準は、各地の条件がちがひすぎるため、つくりたくてもできないのが現状であろう。両国の授業は、年令と能力を基準に編成されているクラスの中で、難易・進度別に、

道徳教育は我が国のように、道徳時間の設定はしていない。しかし、宗教の時間として教師による授業を週一回行っている。質問に「モラルの中心は環境である。」とのこたえがか

ルで封され「key」と書かれている。それに日本でよくいわれる紙くず、たばこのすいがら、あきかん等は、目につかない。五時にはすべての店がしまり、土・日曜が休み。その休みは家庭でくつろぐと

ニュージージーランド・オーストラリアを訪ねて

六年担任 山崎 瞭

能力に合ったグループに分けられ行われている。クラスによつては、同じ教室でありながら学ぶ教科さえちがっている。特に印象深かつたのは、生徒に対する教師の威厳と礼儀正しい子供達の姿である。

えってきた。その環境とは第一が家庭であり、次が社会であり学校であるとのこと。両国とも日本と同じように、家庭の環境を高めることを最重要視していることはもちろんであるが、社会全体のモラルを高めようと努力しているようであつた。努力しているというより、身につけていくと表現した方がいいかも知れない。

のこと。第三次産業どころか第二次産業さえ十分でない国との比較は無理にしても「家族あつて家庭なし。」との言葉さえきける現在の日本を見る時、うらやましさを禁じえない。「校内暴力など聞いたこともない。」とのことである。「モラルは環境で。」との言葉どおり、地域社会の無言の教育力をそこに見ることができた。

一方、我が国では教育の荒唐がさげばれ憂慮されている。その原因を「複合汚染だ。」と表現した人もいる。又、「子どもが変わつたのでも教師が変わつたのでもなく、子ども置かれてる位置、社会そのものが昔とちがってきたというのではないか。」と言つた人もいる。いづれにせよ、「資源の少ない日本が国際社会の中で国を建てていくには



山崎 瞭

民族の知的資源の向上しかない。」といわれている。そのためには、教育の充実しかないと考えれば「子どもをとりまく環境が変わつた。」とだけではすまされない。変われば変わるほど、それに即応し、より質の高い教育をみんまで考え、探らなければならぬ。私は今回の研修で数多くの心暖まる事実に出会つた。ウエリントン郊外で呼びとめられ、なつかしそくに、本当になつかしそくに、日本のことをつたせ、明治学院教授だつた老紳士。



マスコミも教育にはいい意味での関心が高く、週一回は学校のよい点を意図的に記事にするという。テレビは午前十時から午後十一時まで二チャンネル、国営に近い経営で行われている。それに看板が目につかない。まして我が国の映画案内のような看板は皆無である。本屋には週刊誌やマンガが少なく、特殊な本はビニール

「資源の少ない日本が国際社会の中で国を建てていくには

「あなたには日本の方ですね。」と親しみのある笑顔でオフイスに招き、急ぐ私に果物を手渡してくれた人。

又、発音のあやしい単語を並べるだけの私の会話に「アイシー」：「アイシー」を連発し、辛抱強く耳を傾けてくれた人のことなど。すべてこれらは私への好意であると同時に、経済大国日本への好意であると思う。この好意が続くためにも、私達はあらゆる面で成長しなければいけない。

工場見学と太宰府文学散歩

保健給食部

さわやかな秋の一日、北九州コカコーラボトリングの招待による、工場見学と太宰府散策を楽しむことが出来ました。

去る、十月十五日(土)参加者三十七名で、コカコーラ基山工場を見学いたしました。朝七時に出発し、バス、フェリーの旅を楽しみながら約三時間、基山工場に着きました。ここでは主に缶製品をつくっていて、見学当日はスプらいトが製造されていました。

カーボンや砂、口紙による水処理からシロップ調合、炭酸混入を経て、隣りの製缶工場より直接ベルトコンベアで運ばれてくる缶に缶づめされて、いくつかの消毒、検査をくり返して箱づめされるまでを見学いたしました。

近代設備のもとですべて自動化されていて、一分間に約一二〇〇本のスピードで製品化されておりました。主にこの工場からは福岡、佐賀、長崎三県に出荷されているとのことでした。見学後、製品の説明と質疑応答があり、いろいろな角度からの説明を受けました。昼食後、太宰府へと向かい

原 口 芙 蓉

太宰府の政庁のおかれた都府楼、7、9世紀の重要文化財の仏像の多くが安置してある観世音など、ここでは国宝の釣鐘を鳴らすこともでき、澄んだ美しい音色に、心洗われる心地がいたしました。又、今からの時期紅葉が美しい光明寺を見学し、天満宮におまわりして帰途につきました。バスの中では、コーラの方がたから数かずのサービスを受け、とても楽しい一日を過ごすことができました。



参加していただいた皆様、朝早くからおそくまで、おつかれさまでした。ご協力ありがとうございました。

親の成長は子の成長

下川尻 本多 ムツ代

子供達の元気な声が響きわたった近くの公園もスポーツ行事が済み、静かな秋の訪れを感じられるようになりました。核家族と言われ、勉強に

追われる子供達もスポーツを通じ、集団生活から身体を鍛え礼儀作法を学ぶことは、とても大切なことだと思えます。あらゆる面で恵まれている今、子供らしさに欠ける点も時には見受けられます。親の責任も大きいと思

親の目 子の目

いたます。田舎に育った私の思い出は、七人兄妹で、どこの家も同じような大人数で、近所の子供達はいつも集団で遊んでいました。学校から帰ると、田畑の手伝い、妹弟の子守などあたり前でした。時には、山へ薪取りに行き、星の出るまで遊んだり、海へ貝堀りに行き、満ち潮の早さに驚いて逃げ帰ったり、畑の草取りに行き、大きな虫や、ミ

ミズが怖くて泣いて帰ったこともありましたが、親の一生懸命働く様子を見ていましたので、手伝いも分担してやっています。

三小は、叔父の家が近くにあり、良く知っていました。当時は鉄筋建ての校舎は珍らしく、田舎者の私には、とても素晴らしく見えました。縁あって子供がお世話になり喜んでいきます。

中国

六年三組

佐々木 慶介

中国へ行った。中国はぼくの思っていたいじょうに広い。人もものんびりしている。車よりも自転車のほうが多い。だから道路だって自転車

でいっぱいだ。家だって古いものが多い。でも中国の人はここにこして。とても満足そうな顔だ。それにくらべて日本は、なんと小さいことか。

おしきまマシーン

六年三組

植田 桂子

何で子どもは勉強しなきゃいけないのかな。家に帰れば、勉強しなさい。学校に行けば一日中勉強。

もしも、大人と子ども入れかえマシーンがあつたら先生や、お父さん、お母さん子どもにして、反対に「勉強しろ」といつてやるのにな。あーあ、はやく大人になりたいなあ。

お父さん、ぜひどうぞ

父親参加推進委員会

山下利秋

秋の大運動会も終わり、刻々と秋の深みを感じる頃となりました。会員の皆様方には、日頃から育友会活動にご協力を賜わり、また、健全育成にご尽力くださっていることに感謝いたしております。さて、去る五月に、常任委員会の中に、父親参加推進委員会」を発足させました。

本会对する会員の皆さんの参加状況をみますと、それぞれの活動に、多くの方が積極的にご参加いただき、年々活発になってきているようです。しかし、授業参観などの出席者は、ほとんどがご母

のなかには、育友会活動や、授業参観などをとおして、学校教育や子どもの様子を理解する活動、レクリエーションなどの親睦活動などがあります。

さんといった状況です。近年、家庭教育の充実がさげばれ、子どもの養育に対する父親の役割の重要さが認識されつつあるだけに、大変に残念なことです。

推進委員会では、どうしたら父親に、授業参観や学年・学級懇談会に参加していただけるか、数度にわたって討議してまいりました。

子どもの生活は、家庭内での生活、学校での生活、地域社会での生活と分けることができます。私達父親は、家庭内での生活はわかるとしても、学校での生活や社会での生活は、話を聞くだけで、実際にはこの目で見る機会が少ないのではないのでしょうか。まして、学校の授業時間ともなりますと、皆無に等しいのではないかと思います。

これには、いろいろな理由が考えられます。まず第一に、父親の仕事の関係です。授業参観や懇談会はウィークデーの昼間に実施されます。ほとんどの父親は仕事や勤務の真最中。一度は出席して、子どもの様子をのぞいてみたいと思っても、なかなかかなえられないのが

実情です。やむなく、奥方に「オイ、お前が行ってこい。」第二に、学校のご事情は、お母さんの役割とする風潮です。男は外のこと一切、家庭内、特に子どもの養育や教育は、母親の役目とする伝統的(?)な考え方は、世の中が変わってきてても、やはり潜在しているようです。このことが、父親の出席率の低さに微妙に影響していることも事実でしょう。

第三には、男のテレもありそうです。第二の理由とも関連しますが、一度ぐらい授業参観に行つて、子どものようすをのぞいてみたいのだが、ほとんどが母親ばかりの中に男が一人にいるのは、どうも調子が悪い、といった、男性独自の心理が働いているようにも思えます。

そこで、推進委員会では、少しでも父親が参加できやすいようにと、学校側のご協力を仰いで、土曜日午後からの父親授業参観を考えてみました。土曜日の午後といつても、仕事の都合はつかないという向きもありましようが、ウィークデーよりも条件はよさそうだし、「父親」と銘打てば

勇をふるって出席してください。父親も増えるだろうと考えたからです。

もちろん、この企画は、母親を閉め出してしまふものではないと。いろいろな都合で、ふだん出席できないお母さん方にも、この機会にぜひご出席いただき、学校のようすをご覧いただきたいと考えています。

そのために、まず、皆様方の意向や事情を把握する必要があると判断いたしましてアンケート調査を実施しました。

アンケートは、ほぼ80%の回収ができ、皆様方の育友会活動に対する熱意の高さに敬意を表します。

その結果、母親の出席希望が普段以上に高いのに比べて父親の希望者はまだまだ低いようです。

もちろん、わずか一回の授業参観で、子どもの学校生活のようすや、学校教育のすべてがわかるはずはありません。しかし、わずか一回でも、そのことが、家庭内で話題となり、親子のふれあいのきっかけとなるのではないのでしょうか。

子どもたちにとつても、父親が授業を参観してくれるということは、大きな意味をもつものと思います。お父さんは、やっぱり私のことを気にかけてくれているんだ、大切に思ってくれているんだ、といった喜びにつながることでしよう。

子どもの成長の過程で、このような貴重な体験をすることは、その後の人生の大きな支えになるはずですよ。

どうか、私達の意をおくみとりいただき、父親参観日の実施の際には、万難を排してご出席ください。

できればご両親お揃いでご出席いただき、子どもさんを暖かく見守っていただきますようお願いいたします。



町内だより (4) 緑町

緑町育友会長

若松茂年

私ども緑町子供クラブは、男子18名、女子15名、総数33名で構成されており、育友会活動参加数は平均95%以上を越える熱心な町内であり、又、主たる練習場としては、緑町の一角にある「緑町児童公園」があります。環境的に大変恵まれた静かな住宅地にあります。さて、活動内容の一部を紹介致します。

一、男子ソフトボールについて (大会出場三回) ①練習方

子どもクラブ紹介

浦田船津下

松坂真一

ぼくたち浦田下は、人数がそれほど多いわけでもなく、子どもクラブ対抗リレーも強いというわけでもありません。ソフトボール、フットベイスボールでも特別に強いというわけでもない、ごくふつうの子どもクラブです。

ただ、子どもクラブ対抗リレーの選手を教えるのを忘れていたのに、予行練習の時にきちんとブラカードのそばにならんでいたこともあった

重ねて来ました。目的としては非行を防止し、団体生活の意義の重要性を体得するものです。又、多数の父兄参加による練習も意義深いものでした。三、集団登校については班長のもと、雨の日も風の日も整然と行動し登校を行っております。又、父兄も「5」の日には、輪番制をくずすことなく指導点検を行いました。四、廃品回収については父兄の多数の参加はもちろんのこと、四年生以上の児童は全員参加とし、廃品回収の意義と目的を体をもって感じ合いました。五、通学路清掃は父兄全員とこれ又、四年生以上の児童と日頃お世話になっている公園と道路の草取り掃除を行い、感謝の意を感じ合ったところです。以上紹介を終らせて頂きます。



相撲・フットベイスボール大会結果

体育部長

熊本勇治

九月十五日の敬老の日、子供クラブ町内対抗相撲大会と親子フットベイスボール大会

- 二位 栄町A
- 三位 坂上A
- 敢闘賞 浦田上 湊A
- 霊南A 南下川尻B
- 崩山

☆個人戦の部

- 三年生 一位 横田伸夫
- 二位 松田要士成
- 三位 小島健雄
- 四年生 一位 熊本哲朗
- 二位 猪畑重行
- 三位 本多敏高
- 五年生 一位 中村敬太郎
- 二位 高木健司
- 三位 城代一成
- 六年生 一位 佐々木慶介
- 二位 本多秀敏
- 三位 佐藤洋二

☆フットベイスボール

(一位のみ)

- A パート：新山東A
- 南下川尻B
- B パート：川尻・坂上
- C パート：浦田上
- D パート：湊新地・白山・浦田下

以上です。

最後に、各町内代議員の方並びにご父兄の方、ご協力あとかとうございました。



が同時に開催されました。相撲には24チーム、フットベイスボールには25チームと多数参加され、熱戦がくりひろげられました。相撲では、昨年より取り口に迫力があり、見ごたえがありました。フットベイスボールでは、お母さん方が子供以上にハッスルされ、なごやかなうちに終わりました。結果は次のとおりです。

☆団体戦の部

優勝 新山西 (二年連続)